

銚山神社秋季大祭

東國參軍

京都府登録無形民俗文化財
亀岡市指定無形民俗文化財

お問い合わせ先
JR亀岡駅観光案内所
TEL.0771-22-0691



伝統と 文化を伝える

10月 ※荒天の場合は中止することがあります。

23日 **宵々山**
各山鉾町で催し

24日 **宵 宮**
各山鉾町で催し

25日 **本 祭**

The map illustrates the following routes:

- By Train and Bus:**
 - JR Kyoto Station → 山陰本線 (Kameoka Line) → Kameoka Station (約20分)
 - Osaka-Kyoto Intercity Bus from JR Kameoka Station → Kameoka Station (約30分)
- By Car:**
 - From Kyoto City → 五条 (Gion) → JR Kameoka Station (約50分)
 - From Osaka City → JR Kameoka Station (約90分)
- Local Transportation:**
 - JR Kameoka Line (Kameoka Station - Kameoka - Gion - Kameoka Station)
 - Kyoto City Bus (Kameoka Station - Kameoka - Gion - Kyoto City)
 - Kyoto City Subway (Kameoka Station - Kyoto City)
 - Osaka-Kyoto Intercity Bus (Osaka - Kyoto City - Kameoka Station)
 - Osaka City Bus (Osaka - Kyoto City - Kameoka Station)
 - Osaka City Subway (Osaka - Kyoto City - Kameoka Station)
 - Osaka-Kyoto Intercity Bus (Osaka - Kyoto City - Kameoka Station)

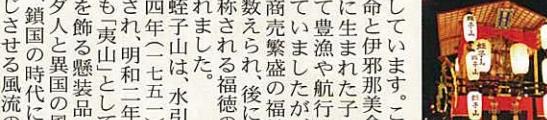
文「すなはち儒教と漢字を伝えた」といわれる王仁をご神体としています。王仁が仁徳天皇の即位式を祝し、「これは春波津に咲くや此花冬籠べと咲くや此花冬籠」の和歌を奉った故事を表しています。

明和二年（一七五五）の行列帳に昇山として記載されていますが、「引き山山記」によると、寛政十一年（一七八九）に曳山に改装された時のことがなっています。町中がえいやいやと引山になおすも神のちからなければ」と町人が心を結集して十年間にわたり祝儀不祝儀諸普請を問わずてに質素簡約することを申し合わせて経費を捻出し送幕の高士観瀑図刺繡は、權威や武力にも屈しない高潔な中國漢字の町衆です。高邁な精神性を今に伝えるもの



釣り上
な鰯を抱
えた豊富
な恵比寿
（蛭子）像
をご神体
としています。この蛭子神は、伊邪那岐命と伊邪那美命の国生み神話で最初に生まれた子で、古くは海の神とされて豊漁や航行安全、交易の神とされていますが、後に市場の神として商売繁盛の福神となり、七福神にも数えられ、後には恵比寿、大黒と並び称される福德の神として広く信仰されました。

蛭子山は、水引幕の墨書銘から寛延四年（一七五二）頃に昇山と日の行列帳にても夷山^{イマツ}として記載されています。山を飾る懸装品の中で、三人のオランダ人と異国の風景を描いた見送幕は、鎖国時代にあって、異国の風を感しさせる風流の意を余すことなく表現した京都西陣の精緻であり、町衆の心意気を方正とさせます。



命をご神体としています。その姿は能楽の「三輪」で演じられる後シテの女神像として表されています。明神・神鳥居の両脇に小規模な二つの鳥居を組み合わせた三ツ鳥居は、三輪山大神社の御神体山神殿の奥に建てられました。そこから御神体山神殿を拝む古代祭祀の形態を残す、三輪山大鉢の正神正面にはこの三ツ鳥居が掲げられます。神体を拝む形となっています。三ツの鳥居の箱書から寛延二年(一七四九)に昇山の神記造されました。姿は、「三輪山神記造に描かれていました。その後曳山に改装されました。山鉢を飾る懸装品には、京都西陣の大模型縫の前幕を始め、イギリス製の洞腹幕、インポートの見送幕、中国清製の官服の胸背刺繡を繋ぎ合わし、水朝引幕など国際色豊かなものであります。

永万元年（一一六五）に氏神である
鍬山神社の御神体山である岡岡山
降臨した誉田別命（応神天皇・八幡
神）を「神体」としています。八幡山の
造営記録である『八幡山記』には、宝
暦十三年（一七六三）に昇山として建
造されたことが記されています。また、天保
十二年（一八四二）に曳山に改
装するに際して町衆が諸事椈約の申
し合わせをする文書も残されていま
す。山鉾に寄せる町衆の祈りと願い
篤い思いと心の結束は、今に引き継
がれています。

また、金箔を押した日輪を鉾頭と
する真木には、風流造山の題材とな
つた八幡神が降臨した姿に由来して
弓矢を飾り付けています。

物としています。「翁は別名式三番」とも呼ばれ、子孫繁栄、國家五穀豊穣を祈る祭儀的な意味合いを持つもので、正月や祝賀に演じられる演目の冒頭に演じられることがあります。翁山は宝暦（一七五一～一七六四）の末ころまでぐじ取らずの「1番山」として巡行していました。しかし、一時途絶えていましたが、文政十二年（一八二九）に再興されました。再興は、當時の最高級の織物で、京都西陣の大型綴で前懸幕、見送幕が新調されました。なお、旧前懸幕の「楼閣宮垣図」、朝鮮毛綴は、滋賀大津祭の神功皇后山の旧前懸幕と類似する貴重な織物です。

題材にした風流造山で、ご神体は釣竿をもつた浦島太郎と亀であらわされています。行列帳によると明和二年（一七六五）頃には建造されていたことが分かります。山懸裝品で注目されるのが、中国から樺太木を経由し、松前藩にたらされた「蝦夷弓」と呼ばれた中國清朝の皇族クラスが用する官服の原反が天水引に仕立てられています。この水引幕は、京都に出て成功した熊野忠兵衛が「梨花白鹿寿老人図」刺繡の見送幕と共に寛政十一年（一七九九）に寄進したものです。また、胴懸幕は、子孫繁栄を表す「元進獅子」の吉祥図が描かれた金箔鮮毛綴です。亀岡祭山鉾には、京都祇園祭に次いで、朝鮮毛綴が多く用いられています。

能楽や謡曲の演目で知られた高砂を題材にした風流造山で、相生の松に寄せて夫婦愛と長寿を愛で、人生を言祝ぐ吉祥を表し、「尉」と「姥」をご神体としています。高砂山は「高砂山人形并山道具入」の箱書に見る宝暦五年(一七五五頃)に昇殿山として建造されました。その後文政八年(一八二五)に鉢に改裝され、同時に「異国人図」を描いた京都西陣の大型絵の見送幕や前懸幕、水引幕が新調されました。また、胴懸幕は、敦煌等の仏教遺跡で知られる中国古蘭省付近でおられた蝶や蝙蝠をあしらつた幾何学文様の絨毯地の毛織物で、異国の風を感じさせます。

商德開運の神である稻荷神宇迦之御魂神・倉稻魂命が稻穂を担う姿をご神像館東の箱書き銘により、寛延四年（一七五二頃）に昇山として建造されました。文久三年（一八六三）に新調された「浅葱地雲龍文様縞珍錦」の旧前懸幕は、中国の皇族が使用するような優品です。現在の前懸幕は、平成十一年に復元新調されたものです。胴懸幕は朝鮮毛綴を裁断して縊織ぎにしたもので、「虎に仙人図」の見送幕は、当時の最高級の織物である京都西陣の大型綾で、町衆の心意気を今に伝えるものです。また、背中には「福」と書かれた染井絹で、山の総指揮をとる世話方の衣装として伝わっています。

ト王権を支え、三六〇歳の長寿で天皇代に仕え景行天皇が御神体として祀られています。武内宿祢は、延命長寿、武運長久、厄除けの神とされています。胴懸幕の箱書きから、安永六年（一七七七）頃に昇殿として建造されました。寛政十一年（一七九九）の記録によれば、三ツ車との記載があることから、滋賀大津祭の曳山のように三輪形式である時の時もあったようです。その後現在の形に改裝されました。鉢合川の際に荒れました。文化元年（一七八〇）に千満珠（如意珠）が飾られた海で百人馬講合に新調された「紅地に白人講合」の見送り錦が現存する。これが、中絶した中国ストリーリーで貴族重族級縫珍です。

くじ取り式



亀岡祭山鉾行事を対象とした
写真をお撮りください!

亀岡市観光写真コンテストに応募いただいた方の中から
亀岡祭山鉾連合会長賞等として表彰します。

応募受付期間／12月1日～1月31日
応募資格／制限なし 応募作品／カラー四ツ切り・未発表の作品
出品料／1点につき 500円

◆詳細につきましては、JR亀岡駅観光案内所（0771-22-0691）へお問い合わせ下さい。

亀岡祭山鉾行事について詳しくは、ホームページでもご覧いただけます。

URL <http://www.kameoka.info/feature/festa/>

主催：亀岡市／亀岡商工会議所／亀岡市観光協会

鍬山神社秋季大祭 亀岡祭の主な日程

10月 1日	氏子領境八箇所御斎神立て 吉符入り(神事始め)	鍬山神社
5日	くじ取り式	鍬山神社参拝
18日	御神輿飾り	亀岡市議会本会議場
20日	神幸祭(おいで祭り)・形原神社御旅所祭 会所飾り	鍬山神社
23日	宵々山 朝より山建て 花灯路設置	各山鉾町
24日	宵宮 花灯路設置	各山鉾町
	形原神社御旅所にて	各山鉾町
25日	本祭山鉾巡行・旧城下町一帯(午前中) 還幸祭(大祭) 氏子町一帯(午前中) (御神輿お山入り)午後	鍬山神社
26日	御神輿仕舞い	鍬山神社
31日	神事済奉告祭	鍬山神社参拝

鍬山神社秋季大祭 亀岡祭山鉾案内図

10月 23日 24日 25日
宵々山 宵宮 本祭

●同時開催される「城下町フェスティバルin亀岡」もお楽しみください。



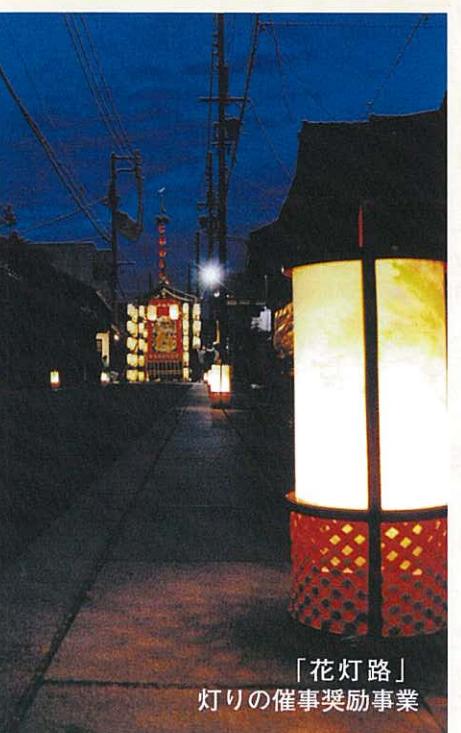
街角ギャラリー 同時開催



亀岡祭の起源は、室町時代にさかのぼるといわれています。天正元年間（一五七三～一五九二）の明智光秀の丹波攻略など戦国時代の混乱の中で一時廃れましたが、江戸時代には歴代藩主の庇護を受け、町衆の力により徐々に復興しました。延宝九年（一六八一）に著された『矢田社之祭法』などによると、当時の亀岡祭は旧暦の九月一日から九月晦日の一ヶ月にわたるもので祇園祭と同様に山鉾の町内巡行や、くじ取り・くじ改めなどが行われていたようです。江戸時代の中頃になると、町衆が日常生活の中で儉約に努め経費を捻出し、それが『引山記』などに記されています。現在十一基の山鉾があり十月二十三日・二十四日・二十五日の祭を盛り上げ、また、山鉾を飾っている織物類の中には、中国やペルシャなどからもたらされたものもあり、亀岡祭は有形・無形の民俗文化財として郷土の先人たちが残してくれた貴重な文化遺産となっています。羽衣山・高砂山・難波山が新たな木製車輪で巡行します。

くじ改め

10月25日の巡行当日、旅籠町で奉行役の市長がくじの順番どおりに山鉾が来たことを確認する儀式。



城下町巡行

11基の山鉾が城下町を巡行します。

25日午前10時から巡行、11時に旅籠町集結

★山鉾巡行曳き手ボランティア募集

連絡先／山鉾連合会事務局（嵯峨根）TEL 0771-22-1755

<http://www.k-yamahoko.com/>